

議員特別研修実施報告書

報告議員名	加藤 雄太	報告日	令和6年2月20日
調査研究・研修等 名 称	地方議員研究会セミナー ・現場から視る家庭教育支援 ・現場から視る不登校支援		
実 施 日	令和6年2月5日		
会 場	大阪市 リファレンス大阪駅前第4ビル		
調査研究・研修等の 概 要	<p>現場から視る家庭教育支援</p> <p>①少子高齢社会だからこそ求められる家庭教育支援 ②子ども家庭庁設立における「就学前の子どもの育ち」と「こどもまんなか社会」 ③家庭教育支援チームやチーム学校で家庭教育を支える ④不登校予防は引きこもり予防 ～家庭教育支援事例紹介～</p> <p>現場から視る不登校支援</p> <p>①増加の一途をたどる現在の「不登校」とは ②誰1人取り残さない不登校支援とは ③ヤングケアラーなどの様々な課題に何ができるか ④保護者の声と不登校支援の実際</p>		
調査研究・研修等の 成果と感想	<p>自分自身が高校生の時に不登校となり、その後退学・中卒という道を選んだ事もあり、それから十数年が経過した現在の子どもとその保護者を取り巻く環境・課題や、不登校支援の実態を学びたく研修を受講した。</p> <p>悩みを持たれる家庭については、助けを求められる・支援にたどり着ける方々と、助けを求める事すら困難な状況にある家庭とに分かれる為、行政として「受け身の支援」では限界がある事を学んだ。いかに「プッシュ型の支援」に切り替えていけるかが今後の課題であると感じる。</p> <p>不登校支援についても、行政による支援にも様々な種類があり、且つ現在では民間の支援という選択肢もある中で、それぞれの状況で適した支援を活用するのが重要と話されていた。私個人としては、子どもが不登校になったとしても、子ども自身やその保護者が孤独や絶望を感じない様な、「居場所がある」と思える様な支援が最も必要な支援ではないかと考える。今後も支援の在り方について学びを深め、子どもと保護者に寄り添える行政の一助に繋げたい。</p>		